(一)　第582号　昭和27年9月25日 第三種郵便物認可　THE MIIKE　【毎週日曜日発行】　昭和34年(1959) 7月12日（日）

首切りはしません
全額支拂います
堤次長辭表を懐に本店へ
雨中の大衆抗議

賃金支払いに関する団交は六月二十五日社長申入れにより四回重ねて来たが、会社は依然として、賃金繰りが困難だと誠意ある回答を示さないだけでなく、将来も分割払いの強行を主張している。正当な労働に対する賃金全額獲得を指標に三鉱連中闘指示に従つて七月六日午後四時、本社裏へ一番万及び常一番、主婦会の評議員以上が集つて抗議行動を行つた。

六日は早朝より降つたり、照つたりの天気で大衆行動も気づかわれていたが、行動を起す三時ごろから天気も明け、本社裏へまず不当解雇をうけた選藤分会長の所属する三川支部第十二分会が先頭を切つてデモつて入場、つづいて宮浦・四山と各支部それぞれ舁坑と同時に隊伍を整え、製作支部を最後に午後五時ごろ集合完了、灰原書記長より経過報告があり、抗議団代表として戦術委員会のメンバーおよび主婦会代表三名が本社会議室へ出かけた。

本社会議室へ会社側から、堤次長・安田次長（三川坑長兼務）渡辺人事部長・田中陽、田中正両労働課長代理が準備された台上に立ち組合員や主婦の抗議に応えた。

辭表懐に本店へ

抗議団は経営者の責任を明確にして本店に早々この実情を説明に出かけることを要求。

組合　山元責任者として辭表を懐に(1)十五日全額賃金を支払う、(2)首切りは絶対やらぬ、(3)選藤分会長の首切りを撤回させる。この三つが通らぬ場合は、三池に帰つて来ぬということで上京してもらいたい。

(1)(2)については大体諒承したが、(3)の項について渡辺人事部長が明確な態度をとらず、渡辺人事部長に怒りのホコ先がむけられた。

組合　上司である次長が諒解したことを、部下であるあなたが諒解されぬということは、あなたこそ職場秩序を乱しているのではないか、どうだ。

会社　(3)の項はそれ相当の理解があるので……

組合　とにかく文句はどうでもよいので、次長と同じかどうか。

会社　上司の命には従います。

暫く問答がまくいかない面をハツキリ浮ぼりした格好の返事がつづき、最終的には

本店へ、「堤次長、安田次長の意思には同じで、渡辺部長も最終的には次長と同じ」ということで早急に堤次長が、

(1)賃金全額支払い
(2)首切りを行わぬ
(3)選藤分会長の首切り撤回

の三つを、辭表を懐にして本店に行くことを確約させ、午後九時ごろ散会した。

首切りは必至だ
歸山した宮川中闘と一問一答

不当首切り、企業整備反対の三鉱連中闘として上京中であつた宮川組合長は十日帰山した。直接優遇払いの問題で団交なり、対策をたてて闘つて来られたので、みいけ編集部では、組合員、家族のみなさんに、その内容を十分知つていただくため、いろいろ質問して答えていただきました。

事実はどうか。

答　中闘が六〇%のんだというように諒解されるむきもあるが、中闘は六〇%でやむを得ないとの結論は出していない。むしろ反対であるという考え方を明らかにしている。

しかし、反対だから六〇%をけとばして闘いを継続するというまでには至らなかつたので、六〇%は受けとつておくとの決定そのものが一般的にいわれ、諒解したと受けとられたのではないだろうか。現状では、六〇%自体をけとばして闘うことは問題があつたので、反対だつたが受けとつておくという自体に変りはない。

六山の意思統一が先決

問　今後予想されるのは、なんといつても閉鎖や指名解雇が来ると思うが、いろいろ戦術もあろうと思うが、中闘の構えはどうか。

答　最終的に首切りと軍業場閉鎖がくることは、ほぼ確実であろうということは、中闘委員会でも意思統一がなされた。この問題については二十八年の企闘よりももつと熾烈な内容をもつだろうということも合せ含めて認識しています。従つて、これと対決するには、まず三鉱連全六山の首切りに対決し、徹底的に闘う決意の意思統一がまず優先し、その決意の上に立つての態勢強化が最重点でなければならないと判断している。

そのような闘う決意と、態勢の中から首切りを出させないという事前防止対策を講じなければならぬというのが、三鉱連の一致した路線である。

辭職しても解決せぬ

問　六日山元で大衆討議をして、堤次長が辭表を懐に上京したがこの件について何か話を聞かれたか。

答　直接会つても聞いたことですが、堤次長も上京して山元の実状を最高首脳部に話し、相当努力したという報告は聞いているしかし、社長自からが団交に出て「これ以上できない」といつているのを、山元の一経営者が上京して解決がつくという内容でないとのことで、堤次長の要望は聞き入れられなかつたことも合せ聞いている。だが、辞めるといつてこれが解決するわけではないから、この問題をどう好転させるかを会社幹部としては積極的に努力することが、現状では最大の任務だと判断しているから、辞職するというようなことは、中闘としては待つべきだとのことで、辞表は受理されなかつたようだ

甘い考えは危い

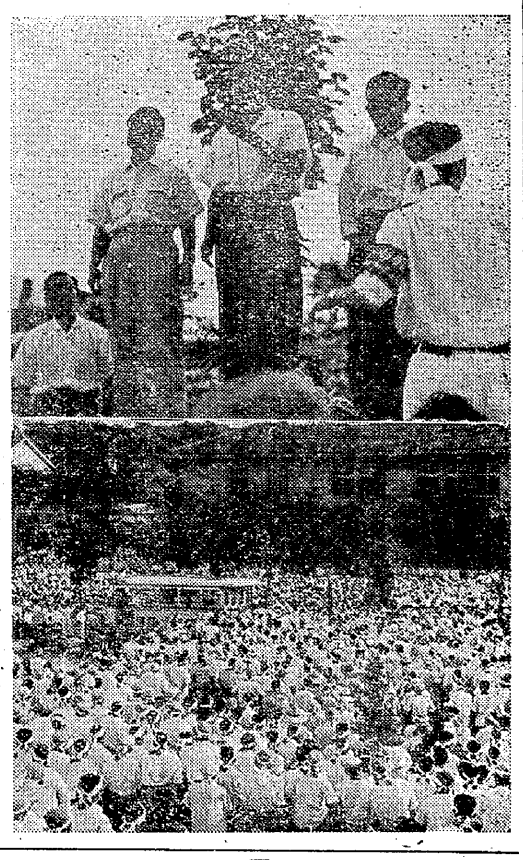
問　執行部では六〇パーセントではどうしても生活が出来ない人もいるので、融資対策をすすめるというが、この真意と執行部の指導方針は。

答　当面の問題として六〇%では現実に食つていけない人が相当いると執行部では判断する。だから、それをどう生活対策するかは十分検討した。では本当に困つている人をどう救うかの方法としては、共済会の利用という点もあるが、六〇%では困るという人の線をどこで引くかに困難があることと、事務的な複雑さもあり、このまま生活対策は行わないとの方針で行くべきだとの意見もあり、その方針を高める要素になるとの判断もある。

したがつてこんごはますます苦しくなつてくることを前提として、事後の組合員に対する生活対策は自から樹立するという考え方の徹底をはかるとともに、今回に限つて四〇%に相当するものを労働金庫から借用し、利子は組合負担として、十五日に全額支払うよう対策を立てる。したがつて今月こんな措置をやつたから来月もこんなことがあるという甘い考えをもつことは事後の闘争力に相当悪影響をおよぼすとの理念に立ち、指導方針を確立して今回限りの措置ということを明らかにした生活対策方針を樹立した。

問　最後に中闘なり、組合長としての意見について……

答　三鉱連六山の中にもそれぞれの闘つてきた歴史と経過が異つてきているから、必ずしも三鉱連の意思が三池の考え方と一致するとは判断されないし、また事実でもある。問題は、そんな違つた考え方（思想）をもつそれぞれの六山が、こんどの企業整備に対してどのように意思統一をし、闘うという決意をするかが一番重要な問題だと考えるしかし、最悪の事態には三鉱労組の独走も辞せずという決意のもとに臨まなければならない。何事も成功させるためには相当な努力が必要であろう。



【写真】（上）右より安田、堤次長、渡辺人事部長
（下）集つた抗議団

前進
三鉱連こんごの路線

賃金の分割払いという事態に対し三鉱連は中闘委員会を招集し、去る二十七日より六回に亘り分割払い反対と、こんごの会社の見通しについて交渉を積極的に行つたしかし、最終的には会社の「十五日に六〇%を支払い、残額は月末に支払う」との線を突破することはできなかつた。

これは現実に、美唄では賃金が十二日、砂川では十三日、他の四山は十五日に支払うという期日の切迫もあり、このような分割払いを絶対承認するわけにはいかないが、かといつて六〇%を蹴つて闘うという実態にはないとの認識の上に立つて一応六〇%は受けとり事後の生活対策については、それぞれ山元で対策を樹立する、という結論になつた。

なお、将来の見通しについては七・八月分の分割払いや、人員整理、事業所の一部縮少といつたように首切りも、一貫した企業整備だとの理念の上に立つて、こんごの闘う方針としては最悪の事態に処して首切りに対決するという決意とそのための態勢強化をはかるという意思統一を大会で行つて、その態勢と決意の中に立つてのみ首切りを出さない事前防止対策が必要である。以上を確認して大会に提案することになつた。

中央の経過について

賃金の分割払いという事態に対し三鉱連は中闘委員会を招集し、去る二十七日より六回に亘り分割払い反対と、こんごの会社の見通しについて交渉を積極的に行つたしかし、最終的には会社の「十五日に六〇%を支払い、残額は月末に支払う」との線を突破することはできなかつた。

これは現実に、美唄では賃金が十二日、砂川では十三日、他の四山は十五日に支払うという期日の切迫もあり、このような分割払いを絶対承認するわけにはいかないが、かといつて六〇%を蹴つて闘うという実態にはないとの認識の上に立つて一応六〇%は受けとり事後の生活対策については、それぞれ山元で対策を樹立する、という結論になつた。

なお、将来の見通しについては七・八月分の分割払いや、人員整理、事業所の一部縮少といつたように首切りも、一貫した企業整備だとの理念の上に立つて、こんごの闘う方針としては最悪の事態に処して首切りに対決するという決意とそのための態勢強化をはかるという意思統一を大会で行つて、その態勢と決意の中に立つてのみ首切りを出さない事前防止対策が必要である。以上を確認して大会に提案することになつた。

われわれの決意

大手四社に出されている企業整備と相関連して、三井鉱山のこのような出方に対するわれわれの決意は、まさに今回開かれる三鉱連大会にかかつていることを十分理解し、大会対策の万全を期せなければならない。

中闘としての考え方

中闘の大会に対する基本的な態度としては、金融資本のテコ入れによる一連の企業整備は、最終的には首切りであるという情勢判断の理念の上に立つて、こんごの闘う方針としては最悪の事態に処して首切りに対決するという決意とそのための態勢強化をはかるという意思統一を大会で行つて、その態勢と決意の中に立つてのみ首切りを出さない事前防止対策が必要である。以上を確認して大会に提案することになつた。

われわれの決意

大手四社に出されている企業整備と相関連して、三井鉱山のこのような出方に対するわれわれの決意は、まさに今回開かれる三鉱連大会にかかつていることを十分理解し、大会対策の万全を期せなければならない。

中闘としての考え方

中闘の大会に対する基本的な態度としては、金融資本のテコ入れによる一連の企業整備は、最終的には首切りであるという情勢判断をくり返すだけで、このような状態で大衆に納得のゆく説明は代表団としてはできないので、経営者の責任で大衆を納得させよ、と午後六時ごろ大衆に説明をするため

分割拂い諒解てない

問　四五パーセント支払いから六〇パーセント支払いになつたいきさつについて

答　組合からこの問題でいろいろ追及されて、当初十五日には四五%支払いを主張しておつたものが、最終的に一億五千万円ほど銀行から借受けるとの約束を得て、最終的には六〇%となつたものである。

問　新聞その他で中闘は六〇パーセント支払いを諒解したような書き方をしているが、その内容は非常にびみようだと思うが、

雨中の大衆抗議

発行所
三池炭鉱労働組合
大牟田市不知火町2
電話3033番
7140番
編集兼発行人　平島敏治

諸君、謀叛を恐れてはならぬ。新しいものは常に謀叛である

徳富芦花

ロマン主義文学者。熊本県生れ「不如帰」「黒潮」の作品あり。